

アウトプットの機会を重視した授業作り—ミンスク国立言語大学における実践報告— キーワード：アウトプット，モチベーション，作品集作成

1. はじめに

ベラルーシには日本語を公的に学べる機関が大学2ヶ所とNGO団体の日本語教室1ヶ所の計3ヶ所のみで、学習者も80名程度である。そして学習者が日本語に触れ実際に使える主な機会は普段の授業、それから年に1度開かれる日本語弁論大会くらいである。また、在留邦人も30名程度と少なく日系企業は皆無である。そのため大学卒業後に日本語を生かした仕事に就くことは非常に厳しくほぼ不可能に近い。このような背景もあり、日本語学習へのモチベーションが低下していく学習者が少なくない。

なお本稿は、稿者が勤務するミンスク国立言語大学（以後、言語大）で2010年度に行った実践報告である。

2. 実践概要

2-1. 担当クラス

言語大は5年に1度しか日本語科への新入生を受け入れていないため、2010年度の当校での学習者は大学4年生になる約20名であった。通常は2クラスに分けて授業を行っている。学習者の日本語レベルは、N4～N2程度と学習者間でかなりの開きが見られ、学習者の中には日本語の勉強をやめたいが今更やめられず一応在籍している者や既に就職してフルタイムで働いている者もいる。日本語の成績が上位の学習者などはそれなりに学習意欲が見られるが、モチベーションが低く出席率の悪い学習者が少なくない。それからどの学習者にも言えることだが、基本的に授業に対して受け身姿勢であり、教師の話は集中して聞いてくれるが、こちらから質問しても答えられるのに答えようとしなないなど授業中、他のクラスメートのいる中で発話するのが苦手なように見受けられた。ある学習者に聞いたところ、この受け身姿勢は大学に入学した当時からであり、今までずっと注意されてきたにもかかわらず変わっていないとのことであった。

2-2. 担当授業

稿者が担当した授業は「会話」と「日本文学」であった。まず、「会話」は週に1度各クラスに入り、さらに隔週でどちらかのクラスに入っていた。科目名は「会話」となっているが、実際は何をしても良いと言われていたため学習者とも相談した結果、授業の一部を文法に充て残りの時間を使って会話の授業を行っていた。会話の授業では、市販教材や生教材、それから稿者が作成した自作プリントなどを使用していた。また、「日本文学」の授業は2クラス合同で週に1度行い、前期と後期の数コマは稿者が講義形式で授業を行ったが、その後は学習者に自分の好きな日本人作家や日本文学の作品について発表してもらう形式で授業を行った。1コマに2～3名が発表していたが、発表後に聞いていた学習者から必

ず質問やコメントをしてもらおうようにしていた。この質問やコメント等も「日本文学」の成績に含むこととした。

2-3. 授業目標

言語大は通訳や翻訳に力を入れており、特に語彙に関しては相当な数を1年生の時から覚えるよう指導されてきている。そのため学習者のノートを見せてもらおうと、様々なジャンルの専門用語がびっしりと書き込まれている。これまで授業を通してインプットの機会はあってもアウトプットの機会は不十分であった印象を受けたため、この1年を通してできる限りアウトプットの機会を増やし、日本語で発話することや何か書くことに慣れてもらおうと考えた。そうすることでただ知識として知っている日本語を自分で実際に使える日本語にしてもらおうことを第一の授業目標とした。その結果、各自が自身の日本語力にもっと自信が持てるようになれば、日本語学習のモチベーション維持にもつながるのではないかと思い授業を行った。

しかし実際に授業を行ってみると、授業内容や学習者によっては日本語で書いたものを教師にすら見せながらないことがあったり、教師には見せても他のクラスメートやクラスゲストに入ってもらった日本人に見られるのは恥ずかしいと言ったりする学習者もいた。その結果、授業を行っても基本的に教師と各学習者との1対1のやり取りになるため、授業の広がりもあまり見られなかった。よって前述した授業目標に加え、クラスメート同士でも発話し合い、書いたものを互いに見せられるようになることも授業目標に設定した。文法の例文を作成後、全員に発表してもらったこと、「日本文学」の発表後に質問やコメントする時間を設けたこともこの目標の一環として行ったものである。

2-4. 作品集作成

授業内で各学習者が作成したものを学習者間で見せ合い、互いに評価してもらいたかったが、すぐにお互いに見せ合える関係作りがなされていなかったこと、そして限られた授業時間内では難しかったこともあり、稿者が学習者の作成物を集め1冊の作品集としてまとめることにした。稿者が学習者間で作成物の共有を望む理由は、教師からだけではなくクラスメートから評価をされることは、教師からの評価とはまた違ったポジティブな感情が生まれるのではないかと、そして他の学習者の作成物によって刺激を受けてもらえたらと期待したためである。また、作品集を作成することで普段稿者の授業にまったく関わることのない同僚にどのような授業を行っているか知ってもらい、学習者がアウトプットしたものもぜひ見てもらいたいと考えた。

なお、この作品集に掲載した項目は以下のとおりである。

①日本語弁論大会のスピーチ原稿

→スピーチを聞きに来ていた他の学習者からの希望を受け、出場者に許可をもらい掲

載することにした

②ことわざ・慣用句

→オリジナルのことわざ・慣用句を作成してもらった

③俳句・川柳

- オリジナルの俳句・川柳を作成してもらった
- ④日本のマンガ文化
 - マンガの吹き出しに各自が考えたセリフを書き込んでもらった
- ⑤今年の漢字
 - 各自が1年を振り返って漢字1字で表し、その理由も合わせて記述してもらった
- ⑥詩
 - テーマや形式は自由でオリジナルの詩を作成してもらった
- ⑦アルバム
 - 1年間、稿者が撮りためた学習者や教師の写真をまとめた

3. 結果

2010年度に稿者が行った授業および作品集に関する調査を同僚および学習者を対象に行った。

3-1. 同僚からの評価

ノンネイティブの同僚1名に半構造化インタビューで調査を行った。その結果、まず稿者が毎回渡していた会話の自作プリントをきちんとファイルしており、作品集も含め自身の日本語学習に利用されていることが分かった。特に稿者が渡していた自作プリントによって様々な新しい語彙を知ることができたそうだ。次に作品集に載せられた学習者の作成物を見て、自身が苦手とする俳句や詩などの苦手分野を克服したいと考えるようになったとのことである。またアルバムの写真を見て、稿者と学習者が教室内外でどのような交流を行っているかを垣間見ることができて良かったと言われた。

3-2. 学習者からの評価

学習者にはアンケート調査を行った。記述部分は日本語でも英語でも記述可とした。返答のあった11名の回答について以下に記す。なお選択式回答部分で選択した者がいなかった項目については記載しない。また学習者の記述したものは直さずそのまま記す。

質問：作品集はどうでしたか（複数回答可）

回答内容	回答数
面白かった	11名
クラスメートの作品が見られるのがいい	8名
日本語の勉強に役立つ	6名
クラスメートに自分の作品が見られるのはいやだ	1名

その他

- ・自分の作品を作り中たくさんいろいろな言葉を見付けました
- ・とてもおもしろかった
- ・最初に自分の作品を見せるのが恥ずかしかったが、今自分の意見や詩などを発表することが好きになりました

質問：作品集の中で気に入っているものを選んでください（複数回答可）

回答内容	回答数
スピーチコンテスト原稿	5名
ことわざ・慣用語	2名
俳句・川柳	2名
日本のマンガ文化	4名
今年の漢字	8名
詩	6名
アルバム	10名

質問：「日本文学」で一人ずつ発表しましたが、どうでしたか（複数回答可）

回答内容	回答数
おもしろかった	10名
難しかった	7名
またやってみたい	4名
日本語の勉強に役に立つ	10名

その他

- ・残念ながらその時とても緊張して慌ててしまいました
- ・日本語の作家について新しく面白いインフォメーションを聞きました
- ・人の前スピーチしたのは良い経験だったと思います
- ・happyoo no tame ni shiryoo o atsumeru no wamuzukashikatta

質問：この授業を受ける前よりも日本語で作品を作ることや発表することに自信が持てるようになりましたか

回答内容	回答数
とても自信が持てるようになった	2名
自信が持てるようになった	8名
特に変わらない	1名

質問：この授業や作品集について何か感想はありませんか（自由記述）

- ・一番好きになったのは詩、俳句とはっぴょをかくことです。私にとって漫画は難しかった。先生、この『2010イニヤズ作品集』ありがとうございます!!!
- ・作品集をいただいて、本当に嬉しかったです。先生や友達と一緒にしたことは思い出に残ります。作品集を貴重な記念品として思っています。本当にありがとうございました。
- ・そのような宿題のため独創力や自信や熱意など持てるようになった。すごく楽しかった！どうもありがとうございました。

- ・その授業はとくどき難しかったけどとても楽しかったです。
- ・先生、作品集を作ってくださいありがとうございます。本当にすばらしかったんだと思います。
- ・授業はとても面白かったです。先生、色々手伝ってくれて本当にありがとうございます。いつもそんなに優しく話したり、分かりやすく説明したり、笑わせてくれたりして、ありがとうございました。
- ・ itsumoonajitaipu no jigyoogaarimasenkaratotemoomoshiroi!
- ・ It is very interesting project which demands efforts, diligence and creativity. It is possibility for each student to show the talent.
- ・ It was very interesting at your classroom, because even if I didn't understand smth, you are always explained everything to me. And it was very interesting always and thank you very much! :)

4. まとめと今後の課題

調査結果により学習者の授業に対する感想や自身の日本語力に関する考えなどが多少なりとも把握することができた。おおむね肯定的な評価を得られたが、いまだに「クラスメートに自分の作品が見られるのがいやだ」と思っている学習者がいたこと、そして「自身の日本語力への自信は特に変わらない」と答えた学習者がいたことから、クラスの雰囲気作り、関係作りにまだ不十分な点があり、アウトプットの機会も十分に提供できていない可能性が考えられた。そのためより良い学習環境の提供を試みなければならない。

それから今回の作品集作りは稿者が一人で製本作業を行ったが、今後は学習者と話し合い、協力し合って作り上げていきたいと考えている。共に作り上げることで、普段の日本語学習に対する姿勢にも積極性が見られるようになり、より学習者の印象に残るものとなるのではないかと考えている。また、もし大学1～2年生などもっと早い学習段階から作品集を作っていくことができれば、毎年1冊ずつ積み重ねていくこととなり、それによって各自で振り返りができ、自身の日本語力の伸びも実感することができるものになるのではないだろうか。そして日本語学習へのモチベーション維持にもつながるのではないかと期待している。

冒頭でも述べたとおり日本語の使用機会が非常に限られた学習環境ではあるが、今後とも日本語のアウトプットの機会を重視し、モチベーション維持にもつながる授業作りを行っていききたいと考えている。